

会長就任挨拶



2021 年 5 月 20 日
日本製薬団体連合会
会長 眞鍋 淳

この度、日本製薬団体連合会の会長を拝命いたしました眞鍋淳です。就任にあたり、ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行を境に、製薬業界を取り巻く環境は大きく変わり、多くの問題が顕在化して参りました。

国内でのワクチン研究開発・製造基盤整備の遅れ、医薬品製造におけるサプライチェーンの脆弱性は国と業界が一体となって克服していかなければなりません。加えて、品質保証、医療保険制度下における流通、社会保障制度財源と薬価のあり方、セルフメディケーションの推進など、製薬業界は多くの課題に直面しています。日薬連会長として、連合会を構成する各業態別団体、各地域別団体の意見や提言を踏まえ、業界全体を俯瞰する立場で政府、政治、医療関係団体など様々なステークホルダーの皆さまとの議論を通じて課題を解決し、国民の健やかな生活を支えうる産業のあるべき姿を実現して参りたいと考えています。

製薬業界の使命は、有効で安全な医薬品を創出すること、人々の日々の生活に欠かせない高品質な医薬品を製造し、非常時にあっても安定供給を維持することです。近年、生命科学の進歩に加えて、ここ数年のデジタル技術の進歩は特筆すべきものがあります。これらの技術は創薬から臨床開発、薬事承認、製造、流通、情報収集・提供という医薬品のバリューチェーンを一層高度なものに革新しうる可能性をもっています。しかし、デジタル技術を活用した医薬品のバリューチェーンにおける、いわゆるエコシステムの枠組みは連合会を構成する各団体それぞれの努力だけで達成できるものでなく、官民一体となって築き上げなければならないと考えています。私は、日本が世界に冠たる真の意味での健康大国となる礎として製薬業界が貢献していかなければならないと考えております。

最後に、2020 年度には品質管理の問題が相次いで報告され、医薬品の安定供給に支障を来すとともに業界全体の信頼を大きく失墜することとなりました。ガバナンス、コンプライアンスの徹底を強化し、製薬企業が国民、患者さんからの信頼を回復できるよう業界一体となり品質確保、安定供給について取り組んでいきたいと思ひます。

以上